

## 歌の周辺

昭和53年、私が三十七歳の時、市川市の国府台こくふのだい下のアパートから同市内の行徳地区のマンションに引っ越した。いわば旧市街地から新興住宅地への転居である。行徳は、もと塩田があった低湿地を埋め立てて造った広大な埋立地で、普通の家屋や高層マンションが建設されつつあり、当時はまだ家屋の建っていない草地があちこちに広がっていた。

或る日、近くを散歩していたら草地から雲雀が飛び立った。そつと近づいて見ると、雲雀の巣があつて小さい卵が幾つか見えた。私はあわててそこを立ち去り、二度とそこに近づかないようにした。そして、この歌を詠んだ。（高野公彦）



(写真・木畑紀子)

高野公彦うた紀行・28

大地いま神のてのひら抱卵のひばりこ  
もれるその巢をのせて

— 『淡青』

【鑑賞】 大慈悲それ自身が歌にすがたを得る  
ならばこうなるだろう。

抱卵の雲雀をやしなう歌の大地には、莊嚴  
さと原初的素朴さとともに湛える風が吹い  
ている。そう感じるのは、卵の命を中心に、  
卵↓卵を抱く雲雀↓卵を抱く雲雀をつつむ巢  
というように外へ外へ広がる歌の構造が、今  
なお外に向かつて広がり続ける宇宙を想起さ  
せるからかもしれない。

(有川知津子)



## ふるさとコレクション——199

### 足柄山の金太郎伝説（神奈川県南足柄市）

千年ほど昔に金太郎は足柄山（箱根外輪山の金時山から足柄峠あたり一帯）で生まれた。熊など山の動物たちと遊び、気は優しく力持ちに育つ。源頼光に見出され、頼光四天王となり、大江山の酒吞童子退治をする。この伝説は子供の健やかな成長と出世を願う先人たちの想像力が、山岳信仰や民俗信仰を根底にして作り上げたお話だ。南足柄市地藏堂の山里には、金太郎生家跡、産湯につかった夕日の滝、太鼓石・兜石と呼ぶ遊び石などの伝説地がある。

江戸時代には通俗史書『前太平記』に、また歌舞伎や浮世絵に金太郎が登場する。喜多川歌麿の「山姥と金太郎 口づけ」、歌川国芳の「坂田怪童丸」など金太郎浮世絵は200点を超える。

明治時代には石原和三郎作詞の唱歌「金太郎」が流行すると、金太郎のイメージは全国に広がり、金太郎五月人形も人気となる。

現在も伝説の真偽とは別に金太郎は生きている。町おこしに祭りに新作グッズにと。金太郎ゆかりの地は全国に12県25ヶ所ほどあり、「金太郎ファミリーの集い」として連携していると聞く。

（写真・解説：加藤 久子）